1年に一度、ハワイになるまち、吉良。南国ムードに包まれました

ハワイアンフェスティバルin吉良ワイキキビーチ

2015ハワイアンフェスティバルが８月24日～29日、吉良ワイキキビーチで開催されました。昼の部では、全国から集まった42チーム総勢約1,000人のフラ愛好家が、カラフルな衣装を身にまとい、笑顔いっぱいでフラを踊りました。誰でも自由に踊れるメレフラタイムも行われ、参加者は思い思いに踊り、楽しんでいました。夜の部では、本場ハワイ・オワフ島からやってきたポリネシアン・ダンスチームによるダンスショーが行われました。迫力満点のファイアーダンスなどが披露されると、訪れた観客は、大きな歓声と盛大な拍手を送っていました。

作って釣って食べて食育

マイ竿（さお）づくりとハゼ釣り体験

食育推進事業「マイ竿づくりとハゼ釣り体験」が９月５日、東幡豆漁港周辺で行われ、約60人の親子連れが参加しました。山から切り出した竹でさおを作り、東幡豆漁業協同組合の石川組合長の指導で、さおに釣り糸や針を付けて準備完了。ゴカイを餌に一斉に釣り体験がスタートしました。親子そろってじっと当たりを待ち、釣れたときには歓声が上がっていました。釣った魚は自らさばいて唐揚げにし、子どもたちは、揚げたてを頭から骨ごとガブリ。海鮮汁なども振る舞われ、三河湾の幸を満喫した体験会になりました。

海魔退散に祈りを込めて

三河一色大提灯まつり

三河一色大提灯まつりが８月26日・27日の両日、一色町の諏訪神社で開催されました。26日の午前中から祭りの準備が始まり、６組の氏子たちがカグラサンと呼ばれる万力を使い、最大で長さ10m、直径5.6mもある大提灯12張りをつり上げました。午後７時からは献燈祭が行われ、最大で重さ80kg以上の巨大ろうそくに御神火を移し、献灯。提灯の中につるされると時代絵巻が幻想的に浮かび上がり、祭りは最高潮に達しました。壮大な大提灯を一目見ようと、大勢の人でにぎわっていました。

市無形民俗文化財

貝吹のかぎ万燈

昨年は雨で中止となったため、２年ぶりとなる「貝吹のかぎ万燈」が８月14日、万灯山で行われました。昔、この山であった僧兵の戦いの犠牲者の霊を弔うために万燈をたいたのが始まりで、約900年の歴史をもつと伝えられます。午後８時30分ごろ、ほら貝を吹く音を合図に、山の西側斜面に並べられた108基の「スズミ」に点火されると、西尾の東の空に「かぎ」形の火文字がくっきりと浮かび上がりました。

ハツ面小学校の児童が工事現場で体験

国道23号新矢作川橋現場見学会

現在、工事が進む国道23号岡崎バイパス新矢作川橋の見学会が９月３日、ハツ面小学校６年生の児童108人を招いて開催されました。児童たちは、高架橋の下では、技術者の皆さんの指導を受け、コンクリート練り混ぜや鉄筋組み立てを体験。新矢作川橋の上では「アスファルトの下で永遠に残る」と説明を受け、コンクリート床版の上に、将来の目標やイラストなどを描きました。また、用意された高所作業車でさらに高く昇ると「ハツ面小学校が見える！」と指さしたり、蒲郡方面へ伸びていく国道23号を眺めたりしていました。

お盆の夜空を鮮やかに彩る

米津の川まつり

第67回西尾・米津の川まつりが、８月15日に矢作川米津橋下流で開催されました。米津小学校マーチングバンドによる演奏の後、戦没者や水難者の霊を慰める万灯流しが行われ、大勢の人が訪れました。花火大会では、約3,000発の打ち上げ花火と仕掛け花火が披露され、色とりどりの花火が夜空を彩りました。会場からは「花火が大きい」「すごくきれい」などの歓声が沸き起こり、お盆の夜を楽しんでいました。

米づくりを学び、食を考える

親子で稲刈り体験と五平餅づくり

ＪＡ西三河事務センターの周辺で８月23日、食育推進事業「親子で稲刈り体験と五平餅づくり」が行われました。参加した11組約40人の親子は、手鎌を使った昔ながらの稲刈りや、刈り取った稲のはざかけ、大型農業機械の試乗などの体験を通して、自然とふれあう農作業の大変さを実感していました。その後、ＪＡ西三河稲作青年部の指導の下、親子で協力し合いながら五平餅づくりを楽しみ、出来上がったばかりでアツアツの五平餅を「手作りで難しかったけど、上手に焼けた」と笑顔で頬張っていました。